

【栽培管理のポイント】

- 1 目標茎数（25本/株）に達したら、中干しを実施！
- 2 登熟前半の水管理により、白未熟粒の多発を防止！
- 3 水田内・畦畔・周辺草地等の雑草管理を徹底して、斑点米を防止！

1 水管理

（1）中干し（6月下旬～7月上旬）・・・茎数約25本/株が確保されたら実施

中干しの メリット	①無効分げつの抑制 ②土壌の酸素不足の解消 ③倒伏防止 ④秋の落水時に容易に田面が硬くなり、秋作業が楽にできる
--------------	--

中干しが必要か水田の状態を見ながら確認

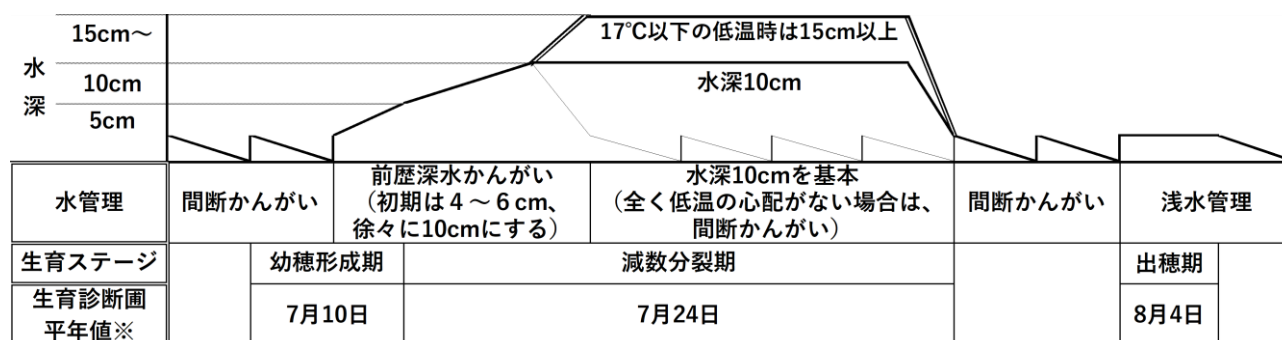
実施が必要	実施は不要
○ 水保ちの良い水田 ○ 地力が高い水田や粘土質土壌 ○ 過繁茂で葉色の濃い水田 ○ 水田に足を踏み込むと気泡が多く発生する水田	○ 漏水田など水保ちの悪い水田 ○ 冷水で生育の遅れている水田（茎数不足を助長する）

時期	6月下旬～7月上旬 茎数約25本/株が確保されたら実施
期間	およそ7～10日
程度	田面に小さな亀裂が生じ、歩いた足跡が軽く付く程度



図1 中干し程度

（2）中干し以降の水管理



※令和元年～令和5年の5カ年平均（ひとめぼれ）

図1 中干し以降の管理のイメージ

- 幼穂形成期まで（中干し終了後～7月上旬頃）・・・間断かんがいで根の活力を維持**
 - ・ 幼穂形成期までは間断かんがいとします。湛水 1 日→落水 2 日→湛水 2 日→落水 1 日と徐々に水に慣らしましょう。
 - ・ 中干し後、急に深水にすると根が酸欠になり、生育不良の原因となります。
 - ・ 中干しが不十分でも幼穂形成期には入水します。
- 減数分裂期終了まで（7月上旬頃～7月下旬頃）・・・深水管理で障害不稔を回避**
 - ・ 幼穂形成期は、水深 4～6 cm 程度を基本とし、次第に水深を深くしていきます。
 - ・ 減数分裂期は、水深 10 cm 以上を基本とします。17℃以下の低温が予想される場合は、15cm 以上の深水とし、水温を維持します。
 - ・ 低温の心配がない場合は、根を健全に保つために、出穂まで間断かんがいとします。
- 出穂～登熟期（8月上旬～）・・・出穂・開花期は田面の露出厳禁、登熟期は高温対策**
 - ・ 出穂・開花期は湛水（浅水）管理とします。この時期の乾燥は不稔を引き起こす可能性があるため田面が露出しないようにしましょう。
 - ・ 登熟期は間断かんがいを基本とします。湛水 2～3 日→落水 1～2 日程度として、根に酸素を供給しましょう。
 - ・ 登熟初期の高温が特に白未熟粒の発生に影響を与えます。水の入れ替え頻度を上げる、入水を夜間に行う等、温度管理に注意しましょう。

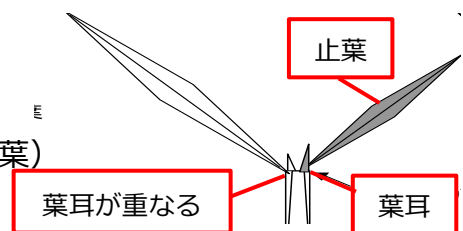
「幼穂形成期」

- ・ 穂の基となる部分（幼穂）を作る時期
- ・ 出穂する約 20～25 日前
- ・ 幼穂 1～2 mm
- ・ ほ場の数カ所から株を選び、株の中で一番長い茎を抜き取って幼穂を調べましょう。



「減数分裂期」

- ・ 花粉が作られる時期
- ・ 出穂する約 10～15 日前
- ・ ほ場の数カ所から株を選び、止葉（一番最後に出る葉）の葉耳（葉の付け根）の位置を確認しましょう。



2 追肥・・・幼穂形成期の葉色をよく確認

- ・ 幼穂形成期を基本とし、葉色が十分低下してから実施しましょう。
- ・ 葉色が十分低下しない場合は、減肥または減数分裂期に実施しましょう。
- ・ 減数分裂期以降の追肥は、食味低下につながります。

表 1 品種別の葉色目安・追肥時期

品種	時期 カラー スケール	幼穂形成期 出穂 25 日前頃	減数分裂期 出穂 15 日前頃
ひとめぼれ	4.0 ～ 5.0	◎	○
あきたこまち	4.7 ～ 5.4	◎	○
銀河のしずく	※	◎	×

※ 銀河のしずくの葉色目安は普及センターにご相談ください。

表 2 肥料別の追肥量（/10a）

肥料名 窒素成分	NKC17 号 (17-0-17)	硫安 (21-0-0)
1.0kg	5.9kg	4.8kg
2.0kg(上限)	11.7kg	9.5kg

3 雑草防除・・・雑草の発生状況を確認し、適期防除が肝心！

- ・ 初中期一発剤は、**散布後約 1 ヶ月頃から薬効が低下**し始めます。
- ・ 雑草の発生状況と草種を確認し、適切な中期剤による雑草防除を心がけましょう。

《発生している雑草と使用する除草剤の例》

- ① ノビエが発生している場合
→ クリンチャー 1 キロ粒剤・ジャンボ
- ② クログワイ、シズイ、ホタルイが発生している場合
→ バサグラン粒剤・液剤
- ③ ①・②どちらも発生している場合
→ アトトリ 1 キロ粒剤・豆つぶ、レブラス 1 キロ粒剤・ジャンボ

(1) ノビエ対策

- ・ 除草剤は生育状況をよく見て、早めの散布が重要です。
- ・ 「**クリンチャー剤**」を散布する時は、**水深 5 cm 程度の湛水状態**にして、水の出入りを止めて散布します。その後**5 日間は入水・落水しない**ようにしましょう。

(2) 難防除雑草対策（クログワイ、ホタルイ、シズイ等）

- ・ 難防除雑草は、土中の塊茎（イモ）で増殖するため、本田で長期間発生します。
- ・ 多発した場合、翌年以降の発生量を減らすためには、塊茎を枯死させることが重要です。塊茎は低温や乾燥に弱いため、秋耕により寒気に晒して枯死させましょう。
- ・ 「**バサグラン剤**」を散布する時は、晴天の続く時にごく**浅水状態**（足跡に水が残っている状態）にして、水の出入りを止めて散布します。その後**5 日間は入水・落水しない**ようにしましょう。
- ・ 「**アトトリ剤**」を散布する時は、**水深 5 cm 程度の湛水状態**にして、水の出入りを止めて散布します。その後**5 日間は入水・落水しない**ようにしましょう。

4 病虫害防除

(1) いもち病対策

- ・ 取置き苗は菌が増殖しやすいため、早めに処分してください。
- ・ 「**オリブライト剤**」の散布適期は、**7 月中旬（出穂 15～25 日前）**です。中干し終了直後に散布すると薬害が出るため、入水後数日してから散布しましょう。

(2) 紋枯病対策

- ・ 出穂期以降、高温多湿が予想される場合は、多発する可能性が高いです。
- ・ 止葉次葉以上に病斑が達すると、減収率が高くなります。
- ・ 「**バリダシン粉剤 DL**」の散布適期は、**出穂直前から出穂期**です。薬剤は株元に十分に散布し、むらのないように全体に均一に散布しましょう。

(3) 斑点米カメムシ類対策

ア 雑草管理・・・イネ科雑草は斑点米カメムシ類の発生源！

- ・ 水田畦畔や周辺草地等の**草刈りは出穂期 2 週間前までに**終わらせましょう。地域一斉の草刈りが効果的です。
- ・ 出穂期以降に草刈りを行う場合は、**殺虫剤の散布後 1 週間以内**に実施します。
- ・ 雑草の発生状況と草種を確認し、適期に中期除草剤を散布しましょう。

- 以下の雑草が水田内にあるとカメムシの産卵場所となり、多発の原因となります。



ノビエ



イヌホタルイ



シズイ

イ 薬剤防除・・・出穂状況を確認し、適期に薬剤防除を実施！

＜防除時期＞

- 適期は、**水稻の穂揃期 1週間後**です。地域一斉に防除すると効果的です。
- 薬剤による防除の回数は、1回防除が基本です。
- ただし、①水田内や畦畔にイネ科雑草が多い、②斑点米カメムシ類の発生量が多い、③割れ粃が多い、のいずれかに当てはまる場合は、2回防除を行いましょう。

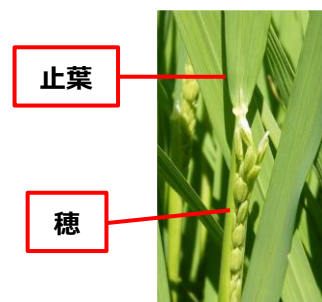
「出穂期」

- ほ場全体で、**少しでも穂先の見える茎が5割**になった時期

「穂揃期」

- ほ場全体で、**少しでも穂先の見える茎が8割**になった時期
- 出穂期から**2～3日後頃**

※「出穂」は穂全体が見えた時ではないので注意！



＜防除薬剤＞

- 「スタークル剤」は粒剤、粉剤 DL、液剤 10 があります。
- 粒剤は湛水状態（3cm 程度）で田面に均一に散布し、4～5 日間は湛水状態を保ち、散布後 7 日間は落水やかけ流しはしないでください。

＜ミツバチの危害防止＞

- 事前に周辺の養蜂家へ防除時期を伝え、ミツバチの危害防止を徹底しましょう。

散：散布時期

▶：「スタークル剤」の防除効果の継続期間

月日※		～7月20日頃	8月4日	8月7日	8月14日	8月21日	8月28日	9月4日	9月11日
出穂期	ほ場全体で、穂先の見える茎が5割になった時期		出穂期 0日	3日後	出穂期 10日後	17日後	24日後	31日後	38日後
				穂揃期 0日	穂揃期 7日後	14日後	21日後	28日後	35日後
穂揃期	ほ場全体で、穂先の見える茎が8割になった時期（出穂期から2、3日後）								
防除時期 （基本は1回防除）					散 スタークル剤		散 （スタークル剤）		
畦畔草刈り時期		畦畔草刈り			（畦畔草刈り）				

※ 生育診断図におけるひとめぼれの出穂期の平年値（R1～R5）より

図2 斑点米カメムシ類防除薬剤の防除効果の継続期間と想定される防除体系

☆☆農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）☆☆

- 本資料は 2024 年 5 月 31 日現在登録内容に基づき作成しています。
- 農薬を使用する前には、ラベルの表示事項を必ず確認の上、農薬使用基準を遵守し、使用者が責任をもって使用してください。各作業日、肥料・農薬名、使用量等を栽培記録簿に記載しましょう。